

事業名	公民館交流事業			
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)
令和4年度			いべんと西河原：¥222,200 中央公民館のつどい：¥138,400	いべんと西河原：¥106,086 中央公民館のつどい：¥100,575
令和5年度			いべんと西河原：¥224,200 中央公民館のつどい：¥139,400	いべんと西河原：¥211,171 中央公民館のつどい：¥139,400
事業の位置付け	根拠法		社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則	
	市の基本計画		狛江市前期基本計画 まちの姿3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」 施策3-②「地域コミュニティ・都市間交流の推進」方向性1「地域コミュニティ活動の活性化」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ②生涯を通じた学びの実現「世代を超えた交流や仲間づくり活動ができる機会を充実を図ります」	
事業目的	公民館利用団体を中心に実行委員会を組織し、一年間の活動の成果を展示やコンサートで発表することで公民館利用者同士や市民との交流を進め、市民の文化活動の拠点となる公民館を活性化させる。		持続可能な開発目標 (SDGs)	
事業内容	開催頻度	各1回		
	新規・継続	継続	実施主体	市
	実施対象	公民館利用団体・市民	参加者数	5,337人
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		
	＜企画・計画性＞ 実施するにあたって企画を深められたか 計画的に実施することができたか	▼実行委員会の連絡をメール等で行えるようにしたこと で、負担が減ったと好評であった。 ▼中央公民館での展示を、体験等ができる参加型を基本とすることで、来場者の層を広げることができた。 ▼発表では模造紙を活用し、スケジュールを見える化することで、例年よりも早く日程調整の決定ができた。		公民館 A 公運審 A 全体 A
	＜周知＞ 市民に周知されているか	▼普段の周知方法に加え、チラシのカラー作成（インターネット印刷）や学校、児童館へのチラシ配付等、新たな取り組みを行うことができた。 ▼キッチンカーや福祉作業所との連携により中央公民館が賑やかになったこともあり、多くの団体からお客が増えたという声が上がった。		公民館 A 公運審 A 全体 A
	＜実施・運営＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面、時間等は適切であるか	▼実行委員会形式で、公民館と利用団体が協力して事業を実施することができた。 ▼実施要領の徹底ができておらず、調整が必要な場合があった。		公民館 B 公運審 B 全体 B
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	▼キッチンカーや福祉作業所の自主製品の販売を初めて行い、好評であった。 ▼コーヒーの入れ方講座や、LINE講座など、新たな試みを行い、好評であった。 ▼いべんと西河原では来場者へのアンケートが取れておらず、利用者の満足度を量りきれない部分もある。		公民館 B 公運審 B 全体 B
	＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	▼5日間で延べ5300人以上の方に参加していただくことができ、公民館利用団体と市民の交流の機会を提供することができた。 ▼参加意向を示した全ての団体に対して、今年度の集大成として発表・展示（体験・販売）ができる場を公民館として提供することができた。		公民館 A 公運審 A 全体 A
今後の課題	▼催しに向けた準備や運営について、実行委員の担当割り振りを精査する必要がある。また、実行委員の当事者意識を促すような工夫が必要である。 ▼来場者へのアンケートをどのように取るか検討する必要がある。 ▼実行委員会と事務局で行われる振り返りの際に出された課題について、来年度以降の改善策を検討しておく必要がある。			
総合評価	▼参加者全員が主体となって実施する事業であるという意識を持ってもらえるよう、仕事の割り振りや運営委員会の実施方法を工夫していただきたい。 ▼アンケートの取り方を工夫し、来館者の満足度と参加者の思う課題を把握できるようにしていただきたい。 ▼団体同士の話し合いや、コラボレーション企画等、公民館利用団体同士の交流ができる機会を設けていただきたい。 ▼チラシの構図や色遣い等を工夫し、一目見るだけで何が行われるのかが分かるようにしていただきたい。			